

開講年度	令和8年度	開講課程	博士課程
授業名	社会医学特別研究		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～4年次
必修・選択の別	選択	単位	1.4単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(法医学) 法医学 (環境保健予防医学) 疫学、予防 (臨床感染制御学) 細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症、抗微生物薬、遺伝子診断、院内感染、薬剤耐性菌、分子疫学的解析 (成育社会医学) こども、健康 (公衆衛生学) 疾病予防、意思決定支援、行動変容		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(法医学) 教授 近藤稔和、准教授 石田裕子、講師 野坂みずほ、講師 石上安希子 (環境保健予防医学) 教授 藤吉 朗、准教授 東山 綾、助教 竹村重輝 (臨床感染制御学) 教授 小泉祐介 (成育社会医学) 准教授 北野尚美 (公衆衛生学) 教授 上田 豊	
	薬		
授業の概要	法医学、環境保健予防医学、臨床感染制御学、成育社会医学、公衆衛生学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。		
到達目標	(法医学) 法医学実務のなかでも損傷死、中毒死、突然死のモデルを樹立してその分子メカニズムの解明に関する研究能力を身につける。 (環境保健予防医学) ①疫学研究に関する論文作成や学会発表に必要な考え方やスタイルを知り実践する。 ②博士論文を投稿可能なレベルまで作成する。 (臨床感染制御学) 臨床感染症学、感染制御学に関する研究計画の立案、研究的手法の実践、データ解析方法について修得する。 (成育社会医学) 予防可能な健康関連要因に着目して先制医療及び早期介入の重要性への理解を深め、ライフステージと成育サイクルの観点から健康課題について考究することができる。 (公衆衛生学) 疾患の予防のメカニズムを理解し、有効な対策法やその普及について考えることができる。		

授業計画	<p>(法医学) 損傷死、中毒死、突然死のモデルを樹立してその分子メカニズムを解析する。(近藤稔和／石田裕子／野坂みずほ／石上安希子)</p> <p>(環境保健予防医学) ①論文作成に必要な背景知識(統計、倫理申請書を含む)を理解し、指導のもと可能な限り関連した実務も行う。②研究テーマにつき学会発表を目指し、博士論文を執筆する。 (藤吉 朗／東山 綾／竹村重輝)</p> <p>(臨床感染制御学) 感染症領域の研究手法、論文作成について指導を行う。(小泉祐介)</p> <p>(成育社会医学) 具体的に選定した研究テーマについて、先行研究調査によってこれまでの知見を整理して研究仮説の導出を指導し、研究計画の立案を指導する。地域や学校でのフィールドスタディに研究チームの一員として参画できる研究環境を準備し、収集したデータをもとに研究論文作成を指導する。(北野尚美)</p> <p>(公衆衛生学) 予防できる感染やがんの対策について概説し、その予防法の向上や普及に向けた研究活動を指導する。(上田 豊)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(研究課題の設定内容、研究の遂行状況)によりS(90点以上)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(法医学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(環境保健予防医学) 【参考書】「基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆」 著者：中村好一 出版社：医学書院 「How to Write, Publish &amp; Present in the Health Science」 著者：Thomas A. Lang 出版社：American College of Physician. 訳本「トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド」 監訳：宮崎貴久子、中山健夫 出版社：シナジー出版</p> <p>(臨床感染制御学) 【教科書】「Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases, 9th edition」 著者：John E. Bennettら 出版社：Elsevier 【参考書】「Clinical Microbiology Reviews」 出版社：American Society of Microbiology Press</p> <p>(成育社会医学) 【参考書】「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」 著者：諏訪敏幸 出版社：近畿病院図書室協議会 「JASMEE library アクセプトされる英語医学論文を書こう！ -ワークショップ方式による英語の弱点克服法」 著者：ネル・L.ケネディら 出版社：メジカルビュー社</p> <p>(公衆衛生学) 【参考書】「医療現場の行動経済学 すれ違う医者と患者」 著者：大竹文雄、平井啓 出版社：東洋経済社 「実践 医療現場の行動経済学 すれ違いの解消法」 著者：大竹文雄、平井啓 出版社：東洋経済社</p>